

# コミュニケーション

No.100  
2020.10月号

## Contents

- P2・3 【特集】  
コミュニケーション100号のあゆみ
- P4・5 園長あいさつ  
コミュニケーションランキング  
コミュニケーション年表
- P6・7 こんにちは!あかちゃん  
移動動物/飼育動物数/訃報
- P8・9 飼育レポート/動物病院から
- P10・11 イベントレポート/今後のイベント
- P12 飼育日誌/お客さまの声  
かたばた通信



【特集】

# コミュニケーション

100号のあゆみ

大森山動物園の情報誌「コミュニケーション」は、1978年から1986年まで発行された手書き、タイプライターによる青焼きの機関誌「やまどり」を経て、1990年にNo.1が発行されました。

発行回数は、月1回から隔月、年4回などの変遷を経て、2008年のNo.75から現在のように年2回(3月号、10月号)の発行になりました。

印刷も当初は白黒印刷からスタートし、2008年のNo.76からはオールカラー印刷となり見やすさが向上しました。現在は、ホームページで最新号やバックナンバー(No.64以降)を見ることができます。

コミュニケーション各号には、その時々動物や施設に関するトピックスのほか、園長や飼育員の思いが綴られています。今後も「コミュニケーション」は、大森山動物園の今を「伝える」ことを大切に、読者のみなさんとつながっていきます。





赤のNo.44~53は年1回の発行のため、表紙にNo.1~10が記載されていますが、青のNo.54以降は赤も含めた通し番号となっています。

# 「コミュニケーション」という名の機関誌

園長 小松 守

今号で当園機関誌が節目ともいえる100号目となった。1990年6月の第1号から30年目でもある。創刊号から変わらぬ機関誌名「コミュニケーション」は当時編集に携わるスタッフが、動物園と入園者や市民、さらに動物たちとどこか心を通わせ、つなげたい、つながりたいという願いを込めて考えたものだ。現在の大森山動物園のテーマ「動物と語らう森」にもつながっている。

発行当初の編集作業は、今のようにスタッフ全員がパソコンを使った編集作業ができた時代ではなく、表紙文字のデザインや資料の切り貼りなどは手作業であり、原版完成後には市役所で印刷をした、まさに手づくり機関誌であった。外から見えにくい動物園の出来事を「伝えたい」、大

森山動物園理解につなげようという当時のスタッフの熱い思いで創られ、継続されてきた。都会の大きな動物園ではなく地方都市の動物園での機関誌発行は先駆的な時代でもあった。

発行継続の実績が認められたこともあり、後に手作りから印刷製本が専門業者に変わり立派な仕上がりになったが、編集作業は今でもスタッフの頑張りで行われている。大森山を「伝えたい」という紙媒体情報は記録として残るものであると同時に、今自分たちが何をしているのかを整理する機会にもなり、動物園づくりの重要工程とも言える。原点を見失わず、しかし新しい時代にふさわしい動物園広報誌として続けてゆきたいものだ。



## コミュニケーションランキング

これまで、コミュニケーションの表紙を飾った動物と、特集で取りあげられた動物のベスト3をお知らせします。興味がある特集は、ホームページのバックナンバー(No.64以降)で読むこともできます。

### 表紙の回数ベスト3

順位	回数	種類
1	5	アフリカゾウ トラ キリン イヌワシ
2	4	チンパンジー シンリンオオカミ レッサーパンダ
3	3	ニホンザル アシカ シマウマ

次点 4位・2回/トナカイ、ライオン、ツキノワグマ、ユキヒョウ、ミーアキャット、ペンギン、ビーバー、ムフロン、カピバラ、ワオキツネザル

### 特集の回数ベスト3

順位	回数	種類
1	8	イヌワシ
2	5	チンパンジー
3	4	アフリカゾウ

次点 4位・2回/キリン、シマウマ、サル全般



## コミュニケーション年表

NO	発行年	発行月	特集タイトル
1	1990	6月号	
2		7月号	マレーグマのブリーディングローン
3		8月号	シマウマの母子、そして飼育係の長い一日
4		9月号	ホオジロカンムリヅルの繁殖
5		10月号	
6.7		11.12月号	1990年大森山動物園10大ニュース
8	1991	1月号	動物園日記～年末の動物病院は大忙し～
9		4月号	ザ・引っ越し
10		6月号	二年目の新たな出発点はカモシカといっしょ
11		8月号	チンパンジーの繁殖作戦
12		10月号	サル山の赤ちゃんと母親
13	1992	1月号	新春放談～大森山のサル大いに語る～
14		4月号	新設フライングケージ 動物園でパードウォッチング!
15		6月号	ニホンカモシカの飼育をやってみて
16		8月号	
17		11月号	
18	1993	1月号	秋田三鶏の話
19		6月号	ゾウの体重を計る
20		8月号	大森山動物園の20年を振り返り(上)
21		11月号	
22	1994	1月号	大森山動物園の20年を振り返り(下)
23		6月号	
24		9月号	シマウマのお引っ越し
25	1995	1月号	新春放談!「あっちこっち見て歩記」
26		6月号	動物園一口ガイド&アドバイス
27		9月号	夏のできごと
28	1996	1月号	動物あしあとクイズ
29		7月号	「水かけ」ボンタの謎
30		10月号	動物園おもしろ話・とびきり話
31	1997	1月号	動物園おもしろ話・とびきり話Part II
32		7月号	平川動物園(鹿児島市)での園館長会議に参加して
33		10月号	1997.大森山の夏
34	1998	1月号	新春初夢談義
35		7月号	ふれあい教室
36		10月号	新しい雄キリンの来園
37	1999	3月号	動物ウォッチング～飼育係の一言アドバイス～
38		7月号	かけ足で見たアメリカの動物園印象記
39		11月号	動物園利用のさらなる広がりをめざして…2つの試み
40	2000	3月号	開園特集 動物園みどころマップ
41		7月号	イヌワシ人工授精への挑戦
42		10月号	自然からのメッセージ(野生鳥獣の保護状況について)
43	2001	3月号	サル山
44	1992	3月号	動物園回顧録
45	1993	3月号	第3回ペンギン会議に参加して
46	1994	3月号	「ふれあいランド」への夢
47	1995	3月号	海外動物園見て歩き
48	1996	3月号	「ふれあいランド」建設工事
49	1997	3月号	いよいよオープン「ふれあいランド」
50	1998	3月号	98冬の動物たち
51	1999	1月号	うさぎ年に寄せたアラカルト
52	2000	1月号	干支の「辰」と動物の「龍」
53	2001	1月号	動物園と学校の連携を考える
54	2001	7月号	「コミュニケーション」誌の10年をふりかえる
55		10月号	猛獣舎(総合動物舎)
56	2002	1月号	「チンパンジーの森」パート1
57		3月号	いよいよオープン これがチンパンジーの森だ!
58		7月号	「たいよう」と共にごんばった3ヶ月
59		10月号	動物園の収穫祭
60	2003	1月号	鳥海&ボンタ「俺たちの30年」

NO	発行年	発行月	特集タイトル
61		3月号	開園30周年特集「大森山の主役たち」
62		7月号	ニホンイヌワシ繁殖成功!
63		10月号	新猛獣舎がめざすもの
64	2004	1月号	大森山動物園サルたちのひとり言
65		3月号	絶滅の淵から復帰への試み
66		7月号	「フンボルトペンギン」の繁殖成功に至るまで
67		10月号	大森山にあった「淡水魚の聖域」～塩曳瀧の水生物調査から～
68	2005	1月号	「冬対策」(冬のどうぶつと動物園)
69		5月号	園内情報マップ
70		10月号	動物園と芸術
71	2006	1月号	大森山動物園条例を作る
72		7月号	イヌワシ3羽孵化
73		10月号	暑さ対策
74	2007	1月号	未来の大森山動物園、夢翔る
75	2008	3月号	動物シンポジウム
76		10月号	①森のびょういん ②ゼニタナゴ保全活動
77	2009	3月号	イヌワシ飼育40年の歴史
78		10月号	①宝くじ遊園「アソヴェの森」 ②ブリーディングローンについて
79	2010	3月号	トラの干支展
80		10月号	秋田の動物園60年
81	2011	3月号	南米小型サル舎「さるっこの森」リニューアルへの道
82		10月号	①東日本大震災と大森山動物園「動物たちから元気を!」 ②秋田市大森山動物園応援会 ③親と子のふれあい写真大会
83	2012	3月号	①平成24年通常開園スタート!もっと近くで。もっと感じて。 ②動物に教え、学ぶ。～動物トレーニングの現場から～
84		10月号	①変わり続ける大森山 動物園&公園 ②人工哺育の取り組み
85	2013	3月号	①大森山動物園の「挑戦」 ②動物園40年 歩みを振り返り、そして未来を展望する。
86		9月号	大森山動物園開園40周年記念
87	2014	3月号	①大森山動物園40周年を終えて ②大森山動物園の挑戦
88		10月号	①大森山動物園ビジターセンターが完成! ②シンポジウム「イヌワシの未来を語る」
89	2015	3月号	①様々な連携を目指して ②高齢化する動物たち
90		10月号	アフリカゾウ来園25周年
91	2016	3月号	①大森山Arts&Zoo ②サルの干支展
92		10月号	アムールトラの導入について
93	2017	3月号	①大森山動物園と教育機関との連携 ②高病原性鳥インフルエンザの発生について
94		10月号	①高病原性鳥インフルエンザからの再出発 ②国内最高齢のニホンイヌワシ「鳥海」の歴史
95	2018	3月号	①飼育下でのイヌワシ保全 ～生息域外保全の現状と課題～ ②3年目を迎えたアートプロジェクト ～大森山Arts&Zoo～
96		10月号	①アフリカゾウの繁殖に向けて ②繁殖に向けたさまざまな取組
97	2019	3月号	①アフリカゾウの繁殖に向けて(その2) ②大森山アートプロジェクトの可能性
98		10月号	楽しく見せるための施設改修
99	2020	3月号	①2年目を迎えた「大森山アートプロジェクト」 ②大森山もりもりコンテスト
100		10月号	コミュニケーション100号のあゆみ

こんにちは!

## あかちゃん



### コモンマーモセットの「ゆば」と「とうふ」(4月27日)

3月20日にさるっこの森で2頭の赤ちゃんが生まれました。イツキとモモの間にはたくさんの子どもがいますが、今回も家族みんなで協力して子育てしています。



### ビーバーの「チャル」と「チャト」(7月15日)

5月31日に生まれました。こちらも12年ぶりの繁殖です。お母さんの「チャチャ」が屋外展示場の小屋で出産し、子どもが小屋からプールに落ちてしまうハプニングがありました。幸いすぐに救出し、屋内展示場にチャチャと子どもを戻して様子を見ていたところ、2頭目も無事に生まれました。

1月以降に大森山で生まれた  
赤ちゃんをご紹介します。



### キヨンの「サツキ」(6月5日)

5月12日に生まれました。大森山では12年ぶりの繁殖です。親も小さいのですが、さらに小さい子どもは「サツキ」と名付けられ、元気に成長しています。



### 誕生直後のキリンの赤ちゃん(7月14日)

7月14日に当園で13年ぶりとなるキリンの子どもが誕生しました。お母さんの「リンリン」は15歳で初めてのお産だったため、あらゆる事態を想定してキリン担当と獣医師で準備を進めました。びっくりするくらいの安産でしたが、リンリンが授乳などを行わなかったため、その日のうちに人工哺育を始めました。順調に育成中です。

このほか、ワオキツネザル、ニホンザル、シロフクロウ、アカカンガルーに赤ちゃんが生まれています。

よろしくね!  
仲間入りした  
動物たち



### ミーアキャット

1月27日に伊豆シャボテン動物公園からオスの「ライラ」がお嬢さんとして来園しました。検疫とお見合いが終わり、同居させるときは元からいたメス2頭との間で闘争が起きるのではと少し心配しましたが、すぐに受け入れられたようです。かわいい赤ちゃんが見られるといいですね。

元気でね!

# 大森山を後にした動物たち



ヒロシ



月

## アムールトラ

2011年に来園したアムールトラの「ヒロシ」が6月30日にとくしま動物園へ、昨年生まれた4つ子のうちの1頭、メスの「月」が6月22日にいしかわ動物園へ旅立ちました。希少種アムールトラの管理計画に基づくものです。2頭とも元気でね。



塩曳湯を泳ぐ元気

## トナカイ

トナカイの「元気」が6月19日に長野県の須坂市動物園へ旅立ちました。元気は2016年に当園で生まれました。生まれてすぐは弱々しく介添えして母乳を飲ませたり、粉ミルクを飲ませたりしましたが、順調に成長し、母親と一緒に園内の池「塩曳湯」で泳ぐなど立派なおすになりました。須坂での繁殖が期待されます。

## 飼育動物数 2020年6月末現在

哺乳類	51種	363点
鳥類	26種	153点
爬虫類	12種	24点
両生類	3種	5点
魚類	3種	29点
無脊椎	1種	23点
合計	96種	597点

このほか、タンチョウの「鶴太郎」とコモンマーモセットの「こめこ」が他の動物園に旅立ちました。

## 訃報

## 忘れないよ...



トナカイ

### 雁来(かりき) (5月27日死亡)

2014年に釧路市動物園から来園しました。春先妊娠していることがわかり、5月26日に破水しましたが、子どもが出てくる気配がなかったため、動物病院で帝王切開の手術を行いました。子どもは既に力尽きていたため雁来だけでも助けようと獣医師と担当が頑張りましたが、残念ながら翌日亡くなりました。



ミニブタ

### トン吉(1月28日死亡)

トン吉は2006年にトン平と共に2か月齢で来園しました。トレーニングで、お座りやお散歩などをして、たくさんのお客様から愛されました。昨年11月から食欲が低下し、いろいろと治療をしましたが、残念ながら亡くなりました。

この他、ワピチ、シフゾウ、フンボルトペンギン、ワオキツネザル等が死亡しています。

# 飼育report レポ

専門化する動物園における動物の飼育と展示に関する業務への対応の一つとして、秋田市では令和2年度から動物専門員の職種を導入しました。今回は新たに配属された4人の動物専門員にそれぞれの思いをききました。

## シニア動物のごはん

飼育展示担当 奥山 麻裕子

大森山動物園で嘱託の飼育員として13年間勤務し、今年の4月から新たに動物専門員として採用されました。現在わたしが担当している動物の中で、ライオンとオオカミには高齢の個体があり、高齢動物のケアが課題となっています。今回はそのお話をしたいと思います。

人間と同じく動物たちも年齢を重ねるごとに身体に様々な変化が現れますが、ライオンやオオカミなどの肉食獣でわかりやすいのが食欲の減退です。高齢になるにつれて代謝スピードが落ちるため、それに比例して食欲も減り、痩せて体力が落ちてしまいます。動物園の大型肉食獣には鶏肉や馬肉など様々な種類の肉を給餌しますが、食欲が無い高齢個体には、お肉の中でも栄養価が高い部位を小さく食べやすいサイズに切り分け、さらにできるだけ新鮮なものを選んで給餌します。そしてエサの準備で何よりも重要なのが、そ

の動物が「今」食べたいと思っているエサを選ぶことです。

高齢個体に関わらず、飼育している野生動物は体調や気まぐれで食いつきの良いエサが変化しますので、「今日は何を食べたい気分かな?」と動物を良く観察してメニューを決めます。大森山で生活する動物たちが、寿命を全うする日までできる限り健康で充実した生活を送れるよう、今後も飼育業務に努めています。



肉を食べるライオンのマンゴー(23歳)

## 命を繋ぐために

飼育展示担当 関谷 藍子

このたび、動物専門員として新規採用となりましたが、実は大森山動物園での飼育員歴は今年で10年目になります。これまで、特に大きな経験となったのが、希少種のワタボウシタマリンというサルの人工哺育を担当したことです。タマリンの赤ちゃんは、自分の子を認識できなかった母親に、生まれて間もなく、ケガを負わされてしまったため、その日のうちに保護し、人工哺育をすることになりました。当園では初となるタマリンの人工哺育に、不安も大きかったのですが、他園館からの情報や協力を得て、試行錯誤しながらチーム一丸となって、毎日、早朝から夜まで授乳や治療に夢中で取り組みました。手の平にすっぽり入ってしまう小さい生命をなんとか助けてあげたい一心でした。強くたくましく育つようにと願いを込めて、「レオ」と名付けたその個体は、無事、すくすくと成長し、現在は名古屋市の東山動植物園でお嫁

さんと仲良く元気に生活しているようです。

これまでの様々な経験を活かしながら、動物たちがリラックスして、より幸せに過ごせる環境を作ることを目指すとともに、お客様にもっと動物に興味を持って、楽しみながら学んでもらえるように、動物専門員として大森山動物園を盛り上げていきたいと考えています。



人工哺育で育ったレオ(2014年撮影)

## 動物病院から

### 歴代獣医師の記録から思うこと

獣医師 高橋 拓

コミュニケーションの歴史を振り返ってみると「動物病院から」のコーナーは、1998年のNo.36から始まっています。最初の話は「ニホンザルの入れ墨」。現在は、サルの皮下にマイクロチップを入れて個体管理をしていますが、当時は顔に入れ墨をして個体を確認していた様子が書かれています。時間もかかるし、飼育員も一苦労だったようです。

私が印象的だった記事は、No.67でチンパンジーのジェーンが、不運にも

子どもが死んでしまっても絶対に自分の体から離さなかったという内容です。当時の獣医師には、どんなに姿形が変わっても我が子を誰にも渡したくない母の姿に見えたようですが、最後は子どもを手渡してくれました。

この記事から私が過去にノドジロオマキザルの子を展示場で捕まえてその場で治療した経験を思い出しました。その時、母ザルは治療が終わるまで側で心配そうに見ていました。治療が終わると近寄ってきたので、手渡し



## 動物のためにできること

飼育展示担当 阿比留 優一

今年度から大森山動物園に動物専門員として採用されました。私は元々、静岡県の民間動物園で7年間勤務してきました。今まで自分が培ってきたことを、動物のために進化を続けている大森山動物園で活かしたいと考えながら働いています。現在、レッサーパンダの担当となり日々奮闘しています。担当になった当初は、レッサーパンダに警戒されて距離を取られていましたが、毎日声をかけて、ちょっとずつ距離を縮めていき、今では展示場に入ると私に向かって走って来てくれます。

動物園の動物たちは、心も体も健康な状態で生き生きと過ごしてもらうことが何より大切です。毎日なんの刺激もなく変化の乏しい環境で飼育をすると、野生では見られないような異常行動をとるようになります。

それを防ぐため、レッサーパンダではエサの笹やリンゴを1箇所に置くのではなく、展示場のいろいろな場所に置いたり隠したりします。そうすることで、レッサーパンダに運動を

促し、エサの獲得に費やす時間が増えることで心身の健康に繋がっていきます。

動物本来の行動を引き出し、動物たちのより幸せな暮らしを実現させるためには、動物本来の暮らしをしっかりと理解し、飼育下において何が足りていないのかを考えて動物たちと接していかなければなりません。

このことを常に意識しながら、動物専門員としてがんばっていきます。



動物の行動を理解した飼育をめざして

## キリン担当1年目として

飼育展示担当 宮原 星

この春、動物専門員に採用され北海道から秋田に来ました。キョン、エミュー、キリンを担当しています。6月にキョンの出産、7月にキリンの出産と人工哺育など、短期間で貴重な機会に恵まれ、「毎日があっという間に過ぎていく」というのが正直な感想です。

今回は、動物専門員として初めて体験したキリンのリンリンの出産についてお話ししたいと思います。7月14日午前7時39分、監視カメラで破水を確認したとの連絡があり、大急ぎで現場に駆けつけると、赤ちゃんの足が出てきていました。人間に限らず、動物も出産には様々な危険が伴います。ましてやキリンのように大きな動物となると、私たち飼育員にできることはそう多くありません。私は緊張しながら見守っていました。そして午前9時48分、担当者全員がビックリするくらいの安産で赤ちゃんが誕生しました。その30分後には赤ちゃんは起立し歩き始めました。リンリンが子どもをうま

く世話することができず、現在は飼育員が毎日授乳を行っていますが、すくすく成長しています。

私は大森山動物園の職員としてだけでなく、社会人としてもまだまだ未熟です。今後も初めて経験することばかりだと思えますが、この貴重な経験に感謝し、キリンの成長をサポートしながら私自身も学び、成長していきたいと思っています。



キリンの赤ちゃんへの授乳

で子どもを返しました。母と子の絆の強さを感じ、「私たちのことを信じて待っていてくれたのかな?」と思える瞬間でした。

記事で多かった内容は、やはり動物の死と治療についてでした。必ずやってくる死と、同じ症例がほとんど無い動物園動物の治療について、獣医師としてどう向き合うか。色々な思いが交差するため、どうしても書きたくなってしまいます。

掲載初期と比べ、動物の治療、検査、麻酔管理等の内容は、現在は劇的に変化してきました。現在は、インターネットで世

界中の情報がすぐに得られたり、技術の進歩により過去に出来なかったことが可能になったりしています。その部分ではとても恵まれた環境にあると思います。

しかし、過去も現在も変わらないことが一つあります。それは、動物園獣医師として「どうにかして目の前にいる動物を長生きさせてやりたい」という気持ちです。

これからも、この信念を持って動物園動物の未来に力を注いでいきたいと思っています。



これも獣医師の仕事(ライオンの予防接種)

# イベント レポート

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2020年4月18日(土)から5月10日(日)まで臨時休園し、飼育の日イベント、ゴールデンウィークイベントを中止しました。再開後のイベントは、開催方法や内容を工夫しながらの実施となりました。

## 動物園・教育事業—参加型研修会(ワークショップ) 1月22日・23日



たいようへの絵はがき



プログラムの検討

日本動物園水族館協会が主催する標記研修会を当園で開催しました。テーマは「いのちの大切さを学ぶ教育プログラム～心のこもった手作り教材を通して～」。秋田公立美術大学の毛内副学長、大関助教にご協力いただき、全国の動物園、水族館の職員30名が、子どもたちにいのちの大切さを伝えるため、身近な材料でどんな教材ができるか、義足のキリン「たいよう」へ宛てた絵はがき制作や、各園の動物のエピソードを元にプログラムを制作しました。

## アムールトラ4つ子の命名式 2月22日

2019年9月に生まれた4つ子の愛称を公募しました。応募数630件の中から園内選考により、オスが「令(れい)」「風(ふう)」、メスが「和(なごみ)」、「月(つき)」に決定しました。名前は新元号の由来となった万葉集の一節からとられています。命名式では、命名者の菅原真紀さんにトラのぬいぐるみを贈呈し、集まっていたお客様へは、記念シールなどをプレゼントしました。



## 通常開園スタート 3月20日

新型コロナウイルスの影響により、毎年恒例となっていたオープニングセレモニーやお菓子のプレゼントが中止となり、例年より静かな開園となりましたが、動物たちを見て楽しそうに過ごすお客様の姿がいつも以上に印象的でした。



動物たちのお出迎え



## 春の動物ふれあいフェスティバル 6月7日

人気の「どうぶつパレード」は来園者の密集を避けるため、実施できませんでしたが、園内15カ所に設置したクイズに挑戦する「ウォーククイズ」を開催し、約250人の参加者にクイズを楽しんでもらいました。また、動物の豆知識を紹介する「園長の動物アラカルト」のコーナーではお客様が興味深そうに掲示物を読んでいた。



ウォーククイズ

## 第43回 親と子のふれあい写生大会

7月18日～8月9日

園内での密集を避けるため、今年は画用紙を配布して参加者が自宅で作品を制作する形式としました。提出された424点から、秋田市造形教育研究会による審査で、40点が入賞作品として選出され、市長賞など上位3賞へは、今年も新屋ガラス工房に制作いただいたオモリントロフィーを贈呈しました。



市長賞

秋田大学教育文化学部附属小学校6年  
長尾 美佑「みつめる」



秋田市議会議長賞

秋田市立金足西小学校3年  
池田 亮介「オレたちイグアナ」



秋田市教育長賞

秋田市立城東中学校1年  
浅利 美月「風(ふう)が見つめる先」

## 第46回 サマースクール

8月4日～6日

今年は日程や人数を縮小して開催しました。夏休み中の多くのイベントが中止となる中で、たくさんの応募をいただきました。参加した小学生30名は、各学年に分かれ獣舎の清掃やエサ作りなど動物の飼育作業を体験し、体験後は、担当した動物の生態をまとめました。短い夏休みの特別な思い出になっていれればいいです。



飼育作業体験



## 夜の動物園

8月11日～16日

※13日を除く

今年も動物たちの体調を考慮して13日をお休みとし、5日間の夜の動物園を開催しました。動物イベントは中止となりましたが、期間を通して約15,000人が来園し、日中とは違う夜の雰囲気をお楽しみいただきました。



今後の  
イベント

11月29日(日) さよなら感謝祭

2021年1月9日(土)～2月28日(日)の土日祝日  
雪の動物園



# 飼育日誌



1/2	アムールトラ	9/29生まれの四つ子と母カサンドラ♀ 屋外展示訓練。
1/3	シセンレッサーパンダ	親子体重測定実施。ゆり♀6.7kg、かんた♂7.4kg、ひなた♂5.1kg
1/8	ニホンイヌワシ	信濃♂×たつ♀ 交尾行動あり。
1/11	タンチョウ	シゲタ♂が仕切りネットの穴から、ミッチー♀の展示場に入り込む。2羽共に落ち着いた様子のためこのまま同居。
1/12	ニホンイヌワシ	信濃♂×たつ♀、風斗♂×西目♀の交尾行動確認。
1/13	アフリカゾウ	だいすけ♂ 右後肢の薬浴馴致実施。
	ポニー	体重測定実施。エニフ85.0kg、セレナ73.9kg、エルフィー75.6kg
1/16	シマフクロウ	愛花♀ 健康チェック及び採血、嘴整形を実施する。
1/17	ニホンイヌワシ	涼風♂ 秋空♂の採血及び健康チェックを行う。
2/2	ニホンイヌワシ	風斗♂×西目♀ 1卵目産卵。
2/6	ニホンリス	スー♀、朝、巣箱内で死亡を確認。死亡時期は2/4午後～2/5朝と推定される。
2/9	ニホンイヌワシ	風斗♂×西目♀ 関係悪化で抱卵が不安定。2卵を採卵し、孵卵器へ入卵。
	ニホンイヌワシ	信濃♂×たつ♀ 1卵の産卵を確認。
2/10	プレーリードッグ	ジャン♂ 歯切り・治療。ビビ♂ 歯切り。
2/14	アムールトラ	カサンドラ♀ 夕方の採食時に仔を激しく威嚇し、追い払う行動あり。
2/15	キリン	リンリン♀ 25分間の定点目視で胎動を確認。
2/26	アフリカゾウ	だいすけ♂とリリー♀の採血、リリーの採尿と採糞を実施。
	シセンレッサーパンダ	小百合♀ 収容後に恋鳴きあり。明日以降、かんた♂、ひなた♂と分けて飼育。
3/3	ツキノワグマ	冬ごもり終了し、給餌開始。
3/14	ユキヒョウ	採血トレーニング実施。
3/15	ニホンイヌワシ	信濃♂×たつ♀ 孵化の兆し未だなし。
3/25	アムールトラ	ヒロシ♂ 外フェンス越しに吻タッチトレーニング。
3/29	プレーリードッグ	性別不明2頭の出生確認。
3/31	ノドジロオマキザル	カオル♀ 朝に出産。仔は網から床面に落ち、すぐに回収。死亡を確認。
4/3	ニホンイヌワシ	西目♀ 抱卵放棄のため卵回収。たつ♀に抱かせる。
4/4	マーコール	08♂ 夕方突然、呼吸困難症状が出る。4/5死亡。
4/11	プレーリードッグ	3/29生まれ個体(性別不明)2頭が食害により死亡したと思われる。

4/17	ニホンイヌワシ	信濃♂×たつ♀ 抱卵放棄のため確認。ふ化の可能性なしと判断し、回収。
4/20	アフリカゾウ	だいすけ♂ 前日に続いて出舎拒否。
4/26	アフリカゾウ	だいすけ♂ 右後肢薬浴。
	シロフクロウ	ムース♂×チップ♀ 産卵確認。
5/2	タンチョウ	シゲタ♂×みっちゃん♀ 1卵目産卵。
5/7	チンパンジー	ルイ♀とコタロウ♂ 同居する。
5/8	チンパンジー	J太郎♂とコタロウ♂のお見合い実施。
	シンリンオオカミ	ジュディ♀ 朝、姿が見えず。昼前に展示場のプール近くの穴に潜んでいるのを発見。午後、穴から出ていたため、5人で穴を埋める作業を実施。
5/9	アメリカビバー	チャチャ♀ 乳頭部腫脹を確認(妊娠の可能性あり)。
5/13	イワシャコ	♀(赤黄)産卵。自ら食卵して殻だけになっていた。
5/19	スバルバルライチョウ	♀ 頭部の羽色が茶色く変化。
5/21	キョン	ハルカ♀ 性別不明の1頭出産。
5/22	アフリカゾウ	だいすけ♂ 右後肢穴部位モーズペースト薬浴実施。
5/31	アフリカタテガミヤマアラシ	ハルマキ♂とチョモ♀が同居。マウント行動あり。
6/7	アメリカビバー	仔2頭が水飲みバットで泳ぐ練習をしていた。
6/15	タンチョウ	シゲタ♂×みっちゃん♀ 無精卵であることを確認。卵を回収。
	タンチョウ	鶴太郎♂ 神戸市王子動物園へ搬出。
6/20	アメリカビバー	仔2頭、体重測定。(大 体重898g、小 体重773g)
	トナカイ	♂3頭の同居訓練実施。トナカイ放牧場除草作業。
6/21	アムールトラ	月♀ 翌日、いしかわ動物園へ搬出のため、部屋隔離、絶食絶食。
6/29	キリン	リンリン♀ 午前にこれまでで最大の胎動確認。午後は陰部腫脹が増大。
	スバルバルライチョウ	♀換羽終了。
7/3	ジャンボウサギ	ヨシオ♂ 胸元の脱毛と赤み確認。菌の可能性あり。赤み箇所へ抗生剤・抗真菌剤を混ぜて1日1回塗布。
7/9	チンパンジー	コタロウ♂とルイ♀ 同居。
	アムールトラ	カサンドラ♀ 室内の産箱撤去。
7/20	シフゾウ	サリー♀ 起立できず。午前、午後の2回、治療および褥瘡対策として体位変更。
7/28	シフゾウ	サリー♀ 朝8時死亡しているのを確認。
7/29	チンパンジー	コタロウ♂とJ太郎♂ 同居。
7/30	キリン	親2頭は展示場、仔はパドック放飼(親が展示場にいる状態では初)

## お客様の声

- 1月19日 2016年の鳥インフルの本を読みました。たくさん動物が命を落としたことを知らず、いなくなったな〜くらいに思っていました。今回その説明を読めて良かったです。
- 1月25日 キリンエサ販売時、12/7に行われたエンリッチメント大賞の授賞式に参加された、東京からいらっしゃったお客様から「受賞おめでとうございます」とお祝いの言葉を頂きました。(キリン飼育担当)
- 2月29日 飼育員さんが動物の名前を含めて説明してくれたが、離れた後で、名前を間違えていたとわざわざ伝えに来てくれた。素晴らしい対応だと思います。その他、トラの展示で子供を優先するスペースを設けたり、見せ方を工夫したり心遣いは東北1だと思えます。
- 3月23日 トラの4つ子の展示のタイミングでなかったのが残念でした。リスのリーとスーが亡くなっていたのも残念でした。でも皆生きているのを実感できました。
- 5月31日 開園ができてうれしいですね。感染対策など動物園のスタッフの方々、前より忙しくなったと思います。皆様お体大切にしてください。
- 6月28日 子供の頃から利用しています。40年近く、親子3代で利用しています。
- 7月11日 フクロウのごはんタイムに遭遇できました。鶏肉を食べているのは意外でした！貴重なごはんタイム家族だけに見れた！雨の日意外といいかも！

## かたばた通信

2020年の春は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ゴールデンウィーク期間を含む4月18日から5月10日までの23日間を臨時休園としました。来園者がいない日々が続くことで、園内の動物たちも何か様子がおかしいと思っていたのではないのでしょうか。再開園してからも、来園された方々がマスクを着用し、静かに観覧されていることで、動物園本来の姿とは異なる雰囲気となっております。それでも、動物の赤ちゃんが続いて誕生するなどの明るいニュースもあり、多くの親子連れや、若者たちが足を運んで来ております。今後も、新型コロナウイルス感染症の早期の収束を願いつつ、必要な対策を講じながら、来園される方々の笑顔のため、大森山動物園の職員全員が一丸となってがんばっていきたく思います。

(事務長 菅原 健明)